

# 令和7年度 岡山県生涯学習センター運営協議会 第1回会議 開催要項

日時 令和7年7月11日(金) 10:00~12:00

場所 岡山県生涯学習センター 講義棟1階 会議室

## 1 開 会

・あいさつ

岡山県生涯学習センター所長

・新任者紹介

・施設内視察(太陽の丘公園、交流棟)

## 2 議 事

(1) 令和7年度事業の取組状況について

(2) 令和8年度新規事業案について

ア「未来につながる共生社会づくり研修会(仮)」

イ「現場から学び 自身の未来を切り拓く! 実践型研修(仮)」

(3) その他

## 3 その他

(1) 岡山県生涯学習センターマスコット名称について

(2) その他

## 4 閉 会

### 《配付資料》

- ① 令和7年度 要覧
- ② 生涯学習センターだより(No.62)
- ③ 事業のまとめ

# 令和7年度 岡山県生涯学習センター運営協議会委員

(任期:R6.6.1~R8.5.31)

令和7年5月9日現在

	氏名	所属・役職	備考
1	浅野 浩一	岡山県中小企業家同友会 社員教育求人委員会委員長	
2	○ 荒金 徹	岡山県立烏城高等学校 校長	
3	川埜 誠	瀬戸内市立裳掛小学校 校長	
4	黒住 正義	山陽新聞社論説委員会 委員	
5	澤山 優花	ノートルダム清心女子大学 学生	
6	柴田 健志	岡山県ボランティア・NPO活動支援センター 副センター長	
7	二階堂 裕子	ノートルダム清心女子大学 文学部現代社会学科 教授	
8	花房 功基	岡山県青年団協議会 常任理事	
9	◎ 福島 治子	くらしき作陽大学 子ども教育学部 教授	
10	美咲 美佐子	特定非営利活動法人岡山市子どもセンター 代表理事	

◎:会長、○:副会長

(50音順)

## 未来につながる共生社会づくり研修会（仮）

### 事業目的

- ① 社会的制約のある人々（例えば高齢者、障がい者、外国人など、様々な状況に置かれた人たち）と、取り巻く地域の方々がともに学び、交流する場づくりができる人材の育成。
- ② 社会教育行政職員だけでなく、NPO法人や社会教育団体などが参加することによるネットワークづくり。

### 背景・課題

- ・ 障がい者を対象とした事業を実施した公民館の割合は、約8%（令和5年度に岡山県公民館連合会の実施した実態調査より）。
- ※現代的課題をテーマとした講座を実施しなかつた公民館の理由・・・展開の難しさ・職員不足・講師確保など
- ・ 国や県の審議会等において、障がい者や外国人など、多様な人々に対して目を向け、全ての人が共に学ぶことができる環境づくりを進める必要があるとされている。
- ・ 多様な個人それぞれが生きがいを感じ、地域や社会が幸せや豊かさを感じられる日本社会に根差したウェルビーイングの向上を目指して、社会教育人材の活躍の場を増やす。

### 事業内容

対象：公民館職員等の社会教育行政職員、社会教育主事、社会教育士、社会教育関係団体、NPO法人 等

定員：各回40名

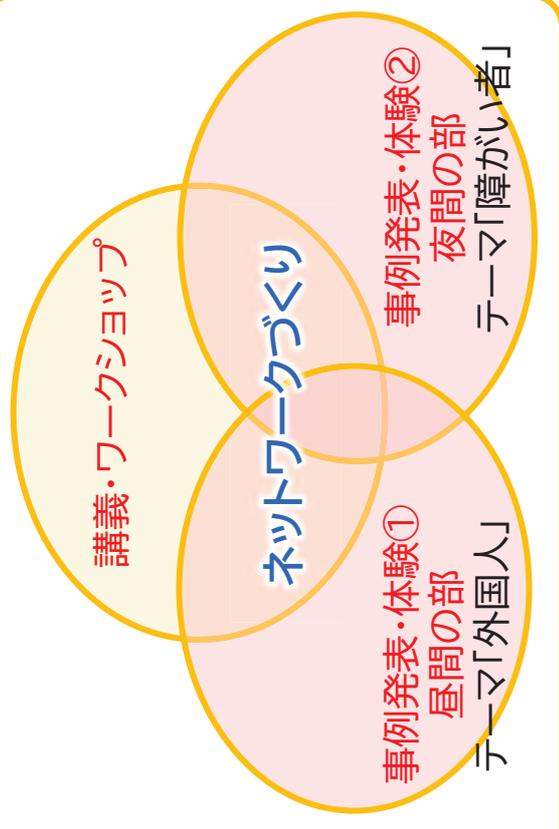
実施回数：年間3回（7月、9月、11月）

### 講義・ワークショップ

- ・ 共生社会実現に向けての重要性や課題について講義
- ・ 外国人、障がい者等の社会的制約のある人々の学びや交流の機会が提供できる事業の企画・立案について
- ・ 参加者によるネットワークづくり

### 事例発表・体験

- ・ 公民館及び社会教育施設等においての実践事例、体験
- ・ 参加者によるネットワークづくり
- ・ 昼間の部と夜間の部の開催
- ・ オンラインでの参加も可



### 期待される効果

- ・ 多様な実践を参考にすることで、社会的制約のある人々と、取り巻く地域の人々の学びや交流の場づくりのための事業を企画・立案し、それぞれの市町村において実施しようとする人材を育成できる。
- ・ 社会的制約のある人々だけではなく、その地域住民を巻き込みながら、それぞれの立場や困難に対する理解を深め、言葉や行動に配慮したコミュニケーション能力を備え、共に支え合う地域づくりのきっかけとする。
- ・ 参加者同士のネットワークを広げ、お互いのアイデアを持ち帰ることで、コミュニティの中で協力し合う姿が生まれ、地域での学びの場の創出につながる。

## 事業名:現場から学び 自身の未来を切り拓く！実践型研修（仮）

### 事業目的

地域おこし協力隊員の活動に触れることで、大学生や若者が意欲や自信を持ち、自己決定力や多様な他者と協働する姿勢を身につける。

### 背景・課題

- ・「社会に満足していない」と答えた18歳～29歳は56%であり、その理由としては、「若者が社会での自立を目指しにくい」が30%であった。一方で、「何か社会のために役立ちたい」と思っている」と答えた18歳～29歳は66.4%であった。(内閣府R4「社会意識に関する世論調査」)
- ・これまで、センター事業に参加した大学生は「将来の夢や目標が定まっていない」「新たなことに挑戦して、自分と向き合い、将来の夢や目標について考えたい」という動機を持っていた。

「やりたいことが分からない」、「将来の見通しがぼんやりしているが、自分を成長させたい」と思っている若者が、自分を見つめ、社会の中での生き方を見つけていく。

### 事業内容

